令和6年度 第2学年 iD 課題研究 I β

リサーチクエスチョンを立てよう

()組 ()番 氏名 ()、()組 ()番 氏名 ()
()組 ()番 氏名 ()、()組 ()番 氏名 ()
()組 ()番 氏名 ()、()組 ()番 氏名 ()

① 研究テーマ (仮)

--

② 社会科学的アプローチ

--

③ アプローチに対して「問い」を立てよう 『課題研究メソッド』 p.44

アプローチが決まっただけでは、まだ「何を明らかにするのか」が曖昧であることが多い。多くの問いを立てて答えを探し、また問いを立て答えを探す…というプロセスを重ね、この課題研究全体で明らかにしたい問い、すなわち「リサーチクエスチョン」を導く。

① 言葉の意味や定義を問う「問い」
② 原因 (なぜ) を問う「問い」
③ 信ぴょう性を問う「問い」
④ 比較を行う「問い」
⑤ 先行研究・先行事例を問う「問い」
⑥ 影響を問う「問い」
⑦ 方法や関連性を問う「問い」

④ 「問い」の答えがすぐに見つかるか、確認する【タブレット活用】

上表に答えを記入していく。新たな問いが出てくれば追加で記入する。

⑤ すぐに答えが見つからない「問い」 『課題研究メソッド』 p.51

これが本当にリサーチクエスチョンになりうるのか、以下で検証していく。

実際に研究を進めていくとして、『課題研究メソッド』 p.55 を参考に

A. どの地域を対象とするのか？

「地方」「発展途上国」などではなく、リサーチクエスチョンでは対象を明確にしなくてはならない。かといって検証不可能な国・地域を対象とするのも不適切。

B. 研究の対象者はどのような人か？

C. いつの時代に焦点をあてるのか？

D. どのような状況を想定しているか？

「不平等」「差別」といった曖昧な言葉ではなく、それらが具体的にどのような状況を指しているのか明確にする。

E. どの学術分野に重点を置いて研究を行うのか？

同じ研究テーマであっても、経済学から切り込むのか、政治学から切り込むのかでまったく違った研究となる。あれもこれも、は時間的に不可能なので、重点を置く分野を明確にする。

⑥ 導き出したリサーチクエスチョン